

『自律的な化学物質管理の指導者養成コース』の設計

研究分担者 石松 維世 産業医科大学 産業保健学部 作業環境計測制御学講座 教授
樋上 光雄 産業医科大学 産業保健学部 作業環境計測制御学講座 助教
原 邦夫 産業医科大学 産業保健学部 非常勤講師

研究要旨

「休業4日以上化学物質による労働災害」のうち、約8割が特別則で定められていない化学物質による災害であるとされ、このような現状をふまえ職場における化学物質規制体系の変更が進みつつある。規則等の改正により自律的な化学物質管理について具体的な方策などが求められるため、専門職が不足している中小零細企業に対し化学物質のリスク認知能力やリスク対処能力を向上させる必要性ととも、外部からの専門家支援の仕組み作りも求められている。本研究では、「職場の作業者のリスクの認知能力と適切なリスク対処能力を向上させる研修」を実施できる指導者を養成する「自律的な化学物質管理の指導者養成コース」を、大学院レベルの4科目90時間程度で設計することを目的とした。特に、作業環境測定士や、化学物質を専門としない労働衛生コンサルタントを対象に、小零細企業における自律的な化学物質管理を指導できるファシリテーターを生み出すことができるコース内容を検討する。2021年度の「自律的な化学物質管理の概要」の講義に引き続き、2022年度は「企業において化学物質の自律的管理を推進するために」という6回の大学院特別講義を支援できた。

2023年度は、引き続き3回目の大学院特別講義を支援した。なお、2023年中に、「産医大認定ハイジニスト制度」が開始され、本研究の目的は実質的に達成された。

A. 研究目的

本研究では、「職場の作業者のリスクの認知能力と適切なリスク対処能力を向上させる研修」を実施できる指導者を養成する「自律的な化学物質管理の指導者養成コース」を、大学院レベルの4科目90時間程度で設計することを目的とした。特に、作業環境測定士や、化学物質を専門としない労働衛生コンサルタントを対象に、小零細企業における自律的な化学物質管理を指導できるファシリテーターを生み出すことができるコース内容を検討した。

B. 研究方法

2021年度に実施した「自律的な化学物質管理の概要」の講義に引き続き[1]、2022年度の「企業において化学物質の自律的管理を推進するために」という6回の大学院特別講義を支援した。講義は、遠隔型のWeb会議サービスのZoomを用いて、PowerPointを使って行うこととし、社会人を想定し夕刻からの90分とした。参加者は、Google formsにより参加登録をし、講義中はChat機能の利用と講義終了後の質疑応答により直接のやりとりができるものとした。各講義終了後には、任意でGoogle formsアンケートによる感想記入およびいくつかの質問に回答をすることで受講終了とし

た。これらの情報は、個人が特定できない情報として活用することを了解した上で、回答を求め論文文化に至った。

2023年度も、同様な形式で3回の大学院講義が開催され支援した。3回の内容は以下のとおりである。

第1回 11月15日、「法改正に伴う企業の化学物質管理について」

第2回 12月13日、「新しい化学物質管理の取り組みについて」

第3回 12月20日、「新しい騒音障害防止のためのガイドラインと騒音管理」

D. 考察

2023年度の大学院特別講義についても支援し、高度人材の指導者層を養成する講義の内容・方法のノウハウは蓄積された。さらに、本研究とは直接関係しないが、2023年度に産業医科大学に「産医大認定ハイジニスト制度」が導入され、化学物質管理も含めた高度人材養成を目的とするものであり、本研究の目的は実質的に達成されたものとするものと考えられる。

E. 研究発表

1. 樋上光雄, 山田晋平, 原邦夫, 宮内博幸: 化学物質の自律的管理移行に対しての準備や懸念. J UOEH (産業医科大学雑誌) 45(3): 167-183, 2023.

F. 学会発表

1. 樋上光雄, 山田晋平, 原邦夫: 自律的化学物質管理への移行に対する産業保健職が感じている課題と必要とする支援. 第96回日本産業衛生学会, 2023

G. 知的財産権の出願・登録状況

この研究において, 知的財産権に該当するものはない.

H. 参考文献

1. 樋上光雄, 山田晋平, 原邦夫(2023): 化学物質の法規制型管理から自律的管理への移行に直面している関係する産業保健職の課題と求めている支援の調査. J. UOEH 45(1): 31-41
2. Kanda Yoshinobu (2013): Investigation of the freely available easy-to-use software 'EZR' for medical statistics. Bone Marrow Transplantation: 48, 452-458
3. 樋口耕一(2004): テキスト型データの計量的分析 —2つのアプローチの峻別と統合— 理論と方法. 数理社会学会 19(1): 101-115